

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点や、所信をたずことです。



辻 紀樹 議員

災害時における避難対策等について 5



柏倉恵里子 議員

長万部町の農業の展望は 6

中学校グラウンドの黒松の管理は 7



橋本 収司 議員

病院施設の将来像は 8



長崎 厚 議員

町道の維持管理について 9

定例会2日目、4人の議員より一般質問が行われました。
その内容を要約してお知らせします。

※全文は町ホームページからご覧になれます。

[町ホームページトップ](#) → [町議会](#) → [会議録](#)

災害時における避難対策等について

(町長) 町に合った防災計画、措置を講じていく

辻 防災対策について

は「人命」を第一とし、町内会単位や津波発生時を想定した全町民対象の避難訓練を実施されているが、避難についてはまだ多くの課題があるのではないか。

1、災害発生時に、いち早く住民に知らせるためのFM電波の利用を協議したが、諸条件が整わず導入を断念したため、今年度、防災行政無線などの導入に向けコンサルタントに委託している。

FM電波を利用した場合、端末機を設置することで全戸に情報を伝達できるのが利点とされているが、防災行政無線などではこの点についてどのような対応策が考えられるのか。

2、津波発生時、即時に避難行動ができない対象者を把握しているか。その対策は。

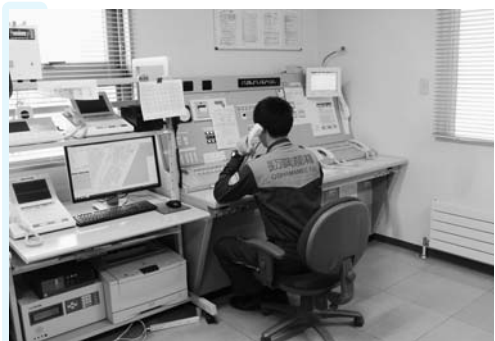
3、災害用備蓄品の種

類と保管先は。

以上、3点について町長の所見を伺う。

町長 1点目は、防災行政無線の戸別受信機の設置も選択肢のひとつと考えている。

2点目は、高齢者や障がい者などを要支援者として把握している。災害発生時の避難支援は、本人及び家族による「自助」、自治会や自主防災組織等による「共助」が基本であり、普段から住民同士が顔の見える関係を構築し、避難支援者の拡大を図ることが災害弱者を救



消防本部指令室

う最大の対策となることから、引き続き町内会などの協力をいただきながら、自主防災組織の結成などに向けた環境づくりに務めたい。

3点目は、現在、毛布1770枚、敷きマット1420枚、給水用20Lタンク100個、給水用6L袋3400枚、非常食500食の備蓄があり、保管先はスポーツセンター、老人福祉センターおよび浄水場の3か所である。

辻 天災はいつどこで発生するかわからない。十分な対策が必要だ。防災担当者も1人から2人へ増員され、できる限り速やかにスピード感のある対策をしていた、きたい。

町長 町に合った防災計画、どうやったら速やかに町民の命を守るのかを考えたい。これでもいいという防災の方法はない

と思うので、次から次と新しい妙手を考え必要な措置を講じていく。

1年2年で防災の関係全てでは完結できないが、何年かかっても、一つひとつの積み上げが町民の命、財産を守る礎になっていくという考え方を持ちながら詰めていきたい。



— 柏倉恵里子 議員 —

長万部町の農業の展望は

(町長) 町内農業全てにおいて後継者不足である

柏倉 6月号の町広報には、地方創生事業で試験栽培を行っていたリーフレタス販売スタートの記事が掲載され、4月には自家の牛乳を使ったチーズ工房も開店を迎え、長万部町の農業にはずみがついたように感じる。

一方、従来より農作物を収穫し、土曜日も盛況だが、担い手の課題がある。東京の銀座にある長万部酒場に提供している野菜も、通年では提供できてはいないようだ。今後、新幹線の駅が出来るときには「道の駅」があれば、やはり地場産品を置きたいものだ。

担い手の育成やぼちぼち村の無農薬野菜の生産増量、あるいは広く野菜を作ってみたい希望者を募り、農家の方達の指導を受けながら出荷できるまでに持っていくなど、大胆な農業政策に舵を取

る考えはないか。町長の所信を伺う。

町長 長万部町の農業の現状は、酪農や黒毛和牛の生産が中心となっているが、乳価や黒毛和牛が高値で安定しており、経営環境は良好である。また、6次産業化のチーズ工房がオープンしたことは、長万部町農業の活性化に繋がるものと期待している。

一方、長万部酒場から野菜を通年で安定供給できないかとの要望があるが、畑作については、長万部町の気象条件や土地条件などにも関連し、農家の件数も少なく、冬期間出荷する作物が無いなど、現状では通年での安定供給は厳しい状況である。野菜生産組合が市場での販売および「あつまんべ」での土曜市や長万部酒場への販売を実施しているが、今年度は地産地消の取り組みとして、



大人気の土曜市

学校給食への提供をできるように具体的な協議をしており、回数は未定だが実施できる見込みだ。

「担い手育成」については、町内農業の全てにおいて後継者が不足しており、担い手不足を解消するべく、新規就農者受入れに係る研修制度や補助制度の検討を行うため、関係機関との打合せおよび検討会議などを実施し、農業政策に反映したい。

また、今年度の具体的な担い手育成の取り組みとしては、「地域おこし協力隊」制度を活用して酪



農ヘルパーとして従事していたら、将来は新規就農をしていただくことを想定している。

ぼちぼち村については、主に移住定住対策が目的であり、農業政策としての検討は適当ではないと考える。

また、野菜作り希望者が農家の指導を受け出荷を、ということについては、実際に指導に当たると農家の方の意見を聞き、農業政策として可能か検討したい。

― 柏倉恵里子 議員 ―

中学校グラウンドの黒松の管理は

(町長) 伐採を視野に入れて検討する

柏倉 中学校グラウンドの周りに植えてある黒松の木が、どの木も枝が全て切られ、一番上に葉があるだけの状態だ。これでは防砂や防風林の役目もできず、景観も非常に良くない。しかも、過去にも枯れかけ、同僚議員から「補償問題ではないのか」との一般質問も行われている。

なぜこのような状態になったのか、原因と今後の対応を町長に伺う。

町長 中学校グラウンド外周には、現在83本の黒松がある。枝払いをした理由は、毎年、除雪等の道路管理に支障がある部分について定期的に枝払いをしてるが、本年、

雪解け時期に黒松の枝折れや落下が頻発し、また、一部変色も見られたため、専門業者に問い合わせたところ、塩害で部分的に枝が枯死し風で折れ落下したものと思われ、そのうち葉の変色が広がり全体が枯れてしまう可能性もあり、さらに枯死した枝は虫が付きやすいため、別な病気などが蔓延する原因にもなりかねず、残った部分を生かすには、なるべく早いうちに枯死した枝を除去した方がよいとのことであった。

変危険であるため、3月中旬から下旬にかけて、従来の枝払いに加え枯死のある部分の枝を切った。枯死の原因は、昨年8月30日の台風10号による塩害と思われる。襲来時には、海からの風、最大瞬間風速33・2mを記録し、多くの樹木が倒れ、また、当時、高潮高波警報が発令されており、吹き上げられた海水が強風により運ばれ、広範囲の塩害が発生した。元来、黒松は塩害に強い樹木だが、土壌自体が塩害にやられると、根から塩分を吸収し極めてゆっくりと枯死が進行することである。その後の経過を見守ってきたが、昨今、

町内の多くの黒松に同様の塩害と思われる枯死や変色が進行している。中学校グラウンドの黒松も、そのままにしておくより更なる落下や倒木が心配されるような状態なので、今後は町民の安全を最優先に、伐採も視野に入れた対応を検討しているところである。

柏倉 中学校のグラウンド外周に

黒松を植えた由来は。

町長 町

木だからではないかと思う。昭和58年に植栽し、184本を370万円で購入したが、59年3月に塩害が起き、昭和59年に全部撤去して植え替えた。



中学校グラウンド外周の黒松

した。その木が現在樹齢34年ということになる。

柏倉 土が塩分を含んでいることは検査済み。

町長 専門家であれば、掘んでみて、見た目でわかるそう。また、何本か切ったが、切り株自体が真つ黒で塩害の大きな証拠として断定した。

— 橋本 収司 議員 —

病院施設の将来像は

(町長) 今後、どのような施設が必要となるのか
検討を進めている

橋本 町立病院は築30年を経過し、維持管理には相当の費用負担があるものと考えられる。また、海岸線から近く、津波ハザードマップによると、津波襲来時には浸水域となっている。

本年3月策定の公共施設等総合管理計画では、大きな修繕が必要となる前に予防保全型の修繕等を重ね、長寿命化を図り、建て替えも視野に検討するとしている。

施設としての町立病院の将来像をどのように位置づけ維持管理していくのか、町長の所見を伺う。

町長 現在、庁舎内に副町長を中心とした検討会議を設置し、今後の病院施設のあり方について検討を進めている。

町立病院は津波の浸水域にあり、耐震基準に問題はないが、塩害などにより建物の老朽化が進み、耐用年数も近づいている



町立病院

ことから維持管理には多額の費用が想定される。

新公立病院改革プランで策定したとおり、当面は病院としての経営形態を維持するが、町民の高齢化が進むなか、地域包括ケアシステムのなかの医療の部分を担当するためには、どのような施設が必要となるのか、道の医療構想や、平成30年の医療改訂の中身を見極めながら検討したい。

橋本 耐用年数も近づいてきている。大変厳しい財政のなか、検討会議

は前向きな方向に進んでいるのか。

町長 町立病院は築35年を経過し、耐用年数としては約40年を目安としている。

1回目の検討会議では、今の建物を補修となると、今後どのくらい費用がかかるか、建て替えるとしたらどの程度の規模の病院にするか検討した。

2回目は、病院の建て替え予定がある平取町へ視察に行った。というのは、病院を建て替えるとなるとまちづくり総合計画に載せたり、議会や町民への説明など協議の進め方、また、財政的見地からの調査が必要となるためである。

最初から方向づけをすると検討会議の意味がなくなるので、検討をした後に方向性を出していきたい。

橋本 検討会議の結果はいつ頃でるのか。

町長 可及的速やかに結論を出せればと思っているが、財政検証にも時間がかかるので、時期については明言できない。何はともあれ医師を確保し、町民が安心して病院を利用していただくということに重きを置き頑張りたい。



— 長崎 厚 議員 —

町道の維持管理について

(町長) 快適な環境整備を目指す



中山大通線（学習文化センター付近）

等、埋設物更新工事などで、既存の舗装を切り剥がして埋め戻しを行った箇所が、段差が生じたため、その都度、部分的なオーバーレイ(※)や舗装改良などの対応をして段差解消を行っており、現在、苦情は寄せられて

長崎 現在、ほとんどの町道は舗装整備されているが、通行量が多い路面では「わだち」や「ひずみ」、「ひび割れ」などが目立つ。特に、中山大通線においては、それらが原因で大型車両が通過する際の振動が大きく、町民からの苦情も寄せられている。

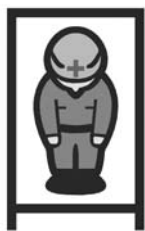
る。振動や騒音の原因を特定し、速やかな対応が必要と考えるが、町長の所見を伺う。

町長 町道の舗装にかかる路面異常については、道路巡回や町民からの情報提供により速やかに確認作業を行い、危険度や緊急度、予算等を勘案しながら対応している。

いない。今後も、工事の施工形状や施工時期を検討し、段差による振動が極力ないように務めたい。

新幹線工事に関しては、また地盤調査の段階である。今後、鉄道運輸機構との協議で、どの路線にどのような車両がどの程度通行するか判明する。具体的な工事内容が確定しながら、できる限り地域住民が快適に過ごすことができる環境の実現に努めたい。

(※)オーバーレイ
段差解消のためのアスファルト補修工法



意見書を提出しました

意見書2件を原案どおり可決し、関係機関へ送付しました。

◇地方財政の充実・強化を求める意見書

◇林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

